

第16回九州地区小学生ディベート大会のご案内

全国教室ディベート連盟九州支部

支部長 佐長 健司（佐賀大学文化教育学部教授）

九州地区の小学生を対象としたディベート大会を下記のとおり開催します。今大会からは、勝敗よりも、対戦する両チームがよりより議論をつくっていくことを重視します。つきましては、小学生の皆さん、コミュニケーション教育に関心のある方々に多数ご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

記

1 大会組織

主催：全国教室ディベート連盟九州支部 後援：佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会（申請中）

協賛：（依頼中）

2 目的

ディベートについての学習成果を発表する機会となる大会を開催し、成績が優秀な個人、及びチームを表彰します。また、コミュニケーション教育に関心のある方々の情報交換の場とします。

3 日時 平成22年12月4日（土）

4 会場 佐賀市青少年センター（佐賀市成章町1-7 TEL 0952-24-2331）

5 対象 小学校中学年（3、4年生）及び高学年（5、6年生）の児童（引率者を必要とする。）

6 日程

10:00	10:20	12:00	12:50	15:20	15:30	16:10	16:30
受付	開会	○モデルディベート ○準備	休憩	○ディベート（予選） 中学年の部 高学年の部	成績発表	○ディベート 決勝試合	表彰 閉会

7 参加について

(1) **事前の準備は不要です。当日、大会スタッフの支援によって準備を行いますので、初めての児童でも参加が可能です。筆記用具、昼食だけご持参ください。**

(2) 参加及び参観ともに無料です。

(3) 申し込み・問い合わせ先

別紙「参加申込書」に必要事項を記入し、11月19日（金）までにご送付ください。FAX、メールでも結構です。

〒840-0202 佐賀市大和町大字久池井1777-1
佐賀市立春日北小学校内 田本 正一（たもと しょういち）
TEL 0952-62-5988 FAX 0952-51-2090
Mail air-station.sf@b2.bunbun.ne.jp

九州地区小学生ディベート大会ルール

1 論題

本大会は、小学生の生活に関する事で、「みんなで考えなければならないこと」を論題とします。論題は大会当日に発表します。

2 フォーマット

ディベートの流れは右のようにします。なお、内容を充実させるために、審判による解説が行われます。

3 チーム

3人から6人でチームをつくります。意見発表、第1反論、第2反論のパートに分かれ試合を行います。

※1人や2人での参加の場合は当日他チームとの合同になる場合があります。また参加多数の場合は、チーム数調整にご協力願う場合もあります。

※第1反論、第2反論は2人まで担当可能です。

①賛成側意見発表 (3分)
②反対側意見発表 (3分)
審判による解説 (2分)
③作戦タイム (3分)
④反対側第1反論 (2分)
⑤賛成側第1反論 (2分)
審判による解説 (2分)
⑥作戦タイム (3分)
⑦反対側第2反論 (2分)
⑧賛成側第2反論 (2分)
⑨審判協議 (5分)
⑩講評 (6分)
合計 35分間

4 進行

司会者の進行によって発言を行い、決められた時間内に述べます。

5 意見発表

(1) 賛成側は、示された論題を実行されることによって発生するメリットを述べます。反対側では発生するデメリットを述べます。メリット、あるいはデメリットは2つまでとします。

(2) 次の順序で述べます。

- ① 賛成・反対の立場
- ② メリット、デメリットのラベル
- ③ メリット、デメリットが発生する根拠
- ④ メリット、デメリットが発生するという結論

「ラベル」とは、メリット・デメリットの内容をまとめた短い言葉のことです。

「根拠」とは、誰もが経験するような事実や筋道を立てた説明のことです。

6 第1反論

(1) 反対側は、賛成側意見発表に反対し、メリット発生が認められないことを述べます。

賛成側は、反対側意見発表に反対し、デメリット発生が認められないことを述べます。

(2) 次の順序で述べます。

- ① 相手の意見発表の内容
- ② 相手のメリット、あるいはデメリットが発生することが認められないこと。
- ③ 相手のメリット、あるいはデメリットが発生することの根拠が不十分であること
- ④ 相手のメリット、あるいはデメリットが発生しないという結論

7 第2反論

- (1) 反対側は、賛成側第1反論に反対し、意見発表で述べたデメリットが発生することを述べます。
賛成側は、反対側第1反論に反対し、意見発表で述べたメリットが発生することを述べます。
- (2) 次の順序で述べます。
- ① 相手の第1反論の内容
 - ② 相手の第1反論の内容に反対すること
 - ③ 相手の第1反論の根拠が不十分であること
 - ④ 自分たちのメリット、あるいはデメリットが発生するという結論

8 コミュニケーションの責任

- (1) 発言の速さ、声の大きさや発音に十分注意して、わかりやすく述べます。
- (2) ナンバリング、ラベリングをしながら意見発表や反論を述べなければなりません。
「ナンバリング」とは、述べる内容の数と順序を示すことです。「○点述べます。第1に～。第2に～」という具合に述べることです。「ラベリング」とは、述べる内容に見出しをつけることです。

9 試合評価と勝敗の判定

- (1) 試合評価と勝敗の判定は、複数の審判が中立の立場から行います。
- (2) 試合評価とは両チームが討論により協力して議論を深めたかどうかを評価します。予選試合の中で最も優れた試合をベストゲームとします。
- (3) 審判は意見発表と反論とを比べ、メリットとデメリットがどの程度発生するかについて判断します。発生すると判断されたメリットとデメリットの大きさ、強さを比べ、大きい方の立場を勝利とします。

10 その他

- (1) ディベートでは、論題に示されたことが実行できないという反論はできません。
- (2) 試合中は、作戦タイムにおいてチーム内で相談することができます。ただし、発言中の選手に対して、他の選手が口頭でアドバイスをすることはできません。
- (3) 試合中、選手は選手以外からのアドバイスを受けることはできません。

第16回九州地区ディベート大会 参加申込書

学校名			
チーム名			
<small>ふりがな</small> 児童氏名 (学年)	() 年		() 年
	() 年		() 年
	() 年		() 年
引率者	氏名		
	住所		
		Tel	